京都薬科大学での学び

教育理念

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

教育目的

本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼備した薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

京都薬科大学は、本学独自のカリキュラムにより所定の単位を修得し、次の 5 つの素養を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与します。

ＤＰ1. 多様な医療関連分野において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を統合的に活用できる。（科学・技術）

ＤＰ2. 問題発見・解決において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を基に思考・実証できる。（科学・技術）

ＤＰ3. 生命を尊重する倫理観および幅広い教養を基に、社会の多様性に対応できる。（人間性）

ＤＰ4. 薬学的知識・技術を基に多職種連携を担ううえで、他職種との協働に対応できる。（人間性）

ＤＰ5. 自己及び他者と共に研鑽し続け、医療や情報・科学技術の進歩に対応する意欲と行動力を有している。（科学・技術・人間性）

薬剤師免許を取得した本学卒業生は、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた薬剤師として、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、医療に関連する領域において、新たな活力となることが期待されます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

京都薬科大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を学生が修得するために、以下の方針に基づいて体系的なカリキュラムを編成・実施しています。

初年次からの基礎的な知識・技術・態度の修得にはじまり、これらを統合して思考・表現する能力、さらには活用して行動する実践力を年次進行的に身につける系統的なカリキュラムを編成します。また、5つの各素養を身につけるための学修内容を授業科目群として体系化し、各授業科目に応じた到達目標・学修内容・評価方法を設定することによってカリキュラムを実施します。

ＣＰ1. 専門的知識・技能の養成（ＤＰ1，ＤＰ2）

1・2 年次での専門基礎科目及び 4 年次までの有機・天然物化学系、分析・物理化学系、生物化学系、医療薬学系の薬学専門講義・演習・実習を通して体系的に薬学を学ぶことにより、高度な専門的知識、統合的な思考力、技術、態度を身につける。

ＣＰ2．研究的思考・実践力の養成（ＤＰ1，ＤＰ2）

1・2 年次での研究室体験や 3 年次後期からの分野での研究活動において最先端の研究に接することにより、課題発見・解決能力を養成する。また、5 年次からは探求薬学コースあるいは実践薬学コースへのコース選択により、4 年次までに培った統合的思考力と技術を基盤として専門性を深化させるとともに研究的実践能力を身につける。

ＣＰ3．教養と倫理観を伴う人間性の醸成（ＤＰ3）

初年次からの充実した教養教育および語学教育により、幅広い教養と視野を身につける。また、学年進行に伴った順次性・連続性のある医療倫理に係る科目群により、医療に関わる専門家としてのヒューマニズムや倫理観を育む。

ＣＰ4．社会における協働力の養成（ＤＰ4）

初年次におけるアクティブラーニングを取り入れた少人数教育（早期体験学習、基礎演習）や他者との協働が必要となる演習・実習科目（薬学専門実習、実務事前演習、薬学研究）、さらには様々な専門性やニーズをもつ人々と接する実務実習を通して、実践的コミュニケーションやプレゼンテーション能力を高め、社会における様々な環境や職域で活躍できる能力を身につける。

ＣＰ5．自己研鑽及び共に学ぶ姿勢の醸成（ＤＰ5）

高学年次での実践的・科目横断的選択科目である薬学実践科目の履修を通して、日々進歩する医療や情報・科学技術に対応するために生涯にわたって自己研鑽する意欲と態度を養成する。また、薬学研究における分野等での研究活動や実務実習における医療現場での体験を通じて、自ら答を見つけることの大切さを理解するとともに、他者と共に研鑽し教えあう姿勢を身につける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

京都薬科大学は、「愛学躬行」を建学精神とし、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を兼ね備え、医療・創薬・生命科学の発展に貢献できる薬剤師の養成を目指しています。入学者は本学の建学精神や教育理念・教育目的をよく理解し、薬学を学ぶことに強い熱意をもってディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を身につけることが必要とされます。そのために以下の能力を備えた者を、各種選抜試験を通して選考します。

ＡＰ1．薬学を学ぶ上で必要な基礎学力を有している。（知識・技能）

ＡＰ2．論理的に思考・表現し、自らの考えを的確に他者に伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）

ＡＰ3．自ら進んで物事の課題や問題点を考え、解決するために努力できる。（主体性）

ＡＰ4．協調性を持ち、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。（協働態度）

参考：カッコ内の語句は以下の「学力の三要素」である。

1．知識・技能

2．思考力・判断力・表現力等の能力

3．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜試験実施方針

薬学はさまざまな学問分野を基礎とする総合科学です。大学入学時点では、高等学校で学ぶ英語、数学、理科等の科目に関する基礎学力を身につけていることが望まれます。また，さまざまな学問分野を意欲的に学ぼうとする積極的な学習姿勢をもつことも望まれます。

大学は、他者との交流を通じて知識を深め、新たな知見を得るとともに、自己理解を深める場です。このため大学は、多様な背景をもった人々が集う場である必要があります。そこで本学では薬学を共に学ぶ多様な学生を受け

入れるために、以下の方針で各入学者選抜試験を実施します。なお、選抜にあたっては、いずれの方式においても調査書を用いて高等学校での履修状況を確認し、合否判定にあたっては総合的に評価します。

【学校推薦型選抜】

指定校制

調査書と面接試験により評価します。本入試では、基礎学力のみならず本学入学後の勉学に対する真摯な姿勢と意欲を重視します。

調査書では一定水準以上の基礎学力（ＡＰ1）が身についているか、面接試験では論理的思考力、表現力（ＡＰ2）、主体性（ＡＰ3）、協働態度（ＡＰ4）、薬学に対する志向性や意欲をもっているか、をそれぞれ評価します。

一般公募制

調査書、本学独自の適性検査（英語と理科（化学））、面接試験により評価します。本入試では、本学で薬学を学ぶための必要な学力と意欲を重視します。

調査書では基礎学力（ＡＰ1）が身についているかのみならず、日本語での表現力や論理的思考力（ＡＰ2）を評価するため国語と数学を評価に加えます。適性検査では本学で薬学を学ぶうえで必要な学力（ＡＰ1）および論理的思考力、判断力、表現力（ＡＰ2）が身についているか、面接試験では論理的思考力、表現力（ＡＰ2）、主体性（ＡＰ3）、表現力協働態度（ＡＰ4）、薬学を学ぶ意欲をもっているか、をそれぞれ評価します。

【一般選抜】

共通テスト利用前期

大学入学共通テストにより評価します。本入試では、大学入学共通テストを用いて全国で統一された基準の下で学力を評価します。

大学入学共通テストでは本学で薬学を学ぶうえで必要な学力（ＡＰ1）および論理的思考力、判断力、表現力（ＡＰ2）が身についているかを評価します。基礎となる数学、英語、理科（「化学」必須、「物理」「生物」から選択）に加えて、国語も重視し、日本語を含めた論理的思考力や表現力に長けた学生を選抜します。

主体性（ＡＰ3）および協働態度（ＡＰ4）については、調査書で確認します。

共通テスト利用後期

書類審査（調査書と志望理由書）と大学入学共通テストにより評価します。本入試では、大学入学共通テストを用いて全国で統一された基準の下で学力を評価するのみならず、本学入学後の勉学に対する志向性や意欲も重視し、評価します。

調査書では基礎学力（ＡＰ1）が身についているか、志望理由書では本学で薬学を学ぶ高い志向性と意欲を有しているか、大学入学共通テストでは本学で薬学を学ぶうえで必要な学力（ＡＰ1）および論理的思考力、判断力、表現力（ＡＰ2）を有しているか、をそれぞれ評価します。

主体性（ＡＰ3）および協働態度（ＡＰ4）については、調査書で確認します。

一般選抜前期（3教科型）

本学独自の学力試験（数学、英語、理科（化学））により評価します。本入試では、薬学の基礎となる数学、英語、理科（化学）の学力がバランスよく身についていることを重視します。

本学独自の学力試験では本学で薬学を学ぶうえで必要な学力（ＡＰ1）、論理的思考力、判断力、表現力（ＡＰ2）を有しているかを評価します。

主体性（ＡＰ3）および協働態度（ＡＰ4）については、調査書で確認します。

一般選抜後期（2教科選択型）

本学独自の学力試験（数学、英語、理科（化学）の3教科のうちから2教科を選択）により評価します。本入試では、選択した2教科の学力について高い習熟度を求めるだけでなく、出題意図を正確に理解する力や論理的思考力、結論に至るプロセスを正確に記述する表現力を重視します。

本学独自の学力試験では本学で薬学を学ぶうえで必要な学力（ＡＰ1）、論理的思考力、判断力、表現力（ＡＰ2）を有しているかを評価します。

主体性（ＡＰ3）および協働態度（ＡＰ4）については、調査書で確認します。